

令和3年度 清原中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強い心・気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（めざす児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気のある学校づくりが重要である。そのために、「子どもが楽しく学び、居がいを感じる学校」「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」「保護者・地域から信頼される魅力ある学校」を目指す。また、教職員の働き方改革を引き続き推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。また、「働き方改革」の理念を踏まえた取組も引き続き推進する。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育に当たり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」の継続的な推進を図るとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、「うつのみやマネジメントシステム」による学校評価結果を反映させながら、地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- (4) 前年度の教育活動や学校評価の反省を十分に生かすとともに、各教科・道徳科・特別活動・総合的な学習の時間及び外国語活動、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。
- (5) ゆいの杜小学校への分離に伴い、学校規模が約3分の1にまで縮小することとなる。様々な学校行事や諸教育活動の実施方法等の見直しが必要となるが、学校長を中心に職員一丸となり、連携、協力を努め、充実した教育活動を展開していくことができるよう編成する。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、教育課程の修正や変更は弾力的に行うものとする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上（清央 PRIDE）
・校内組織管理とボランティア活用による「働き方改革」の推進
【学 習 指 導】
・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～伝え合い深め合う力を高める授業づくり～
【児 童 生 徒 指 導】
○時と場に応じて、自ら進んで元気よくあいさつができ、周囲に対する思いやりを行動で表し、積極的に友達と関わり合える児童の育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・コロナ禍でもできる伝え合いの方法を考え、授業の中で取り入れていく。 ・教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。また、清掃班編制を3回とし、交流の機会を広げる。 ・道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。また、思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識付けを行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	○「清原っ子の約束」や「清央っ子の約束」、学習のきまり、「カテ学ふり返しシート」を活用し望ましい行動習慣の形成を促すとともに、児童の望ましい行動や、よくできたことを称賛する機会を日常的にもつ。 ・学校教育目標と関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、保護者の協力を得る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。		【達成状況】 【次年度の方針】

A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○常時指導を強化するとともに、状況を鑑みながら児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。 ・保護者や地域に運動の様子をHP等で発信し、あいさつの励行、ポケットに手を入れない指導を保護者・地域と共に行い、連携・協力の輪を広げていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が活躍する場を工夫したり、教職員が児童にやれることを提案したりするようにする。 ・コロナ禍の中でも行えた行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに一斉メールなどで、HPがアップされていることを定期的にお知らせする。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・給食だより、保健だより等を活用し朝食の大切さや偏食について、保護者へ啓発を図る。また、「朝ごはん食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。 ・「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「清央っ子の約束」を活用して日常の生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 ・学校生活の中の危険について職員であらかじめ共通理解を図りながら、児童の指導に当たる。 ・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。	【達成状況】 【次年度の方針】

A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ※A 5 で評価	・学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動等の集団活動の中で、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるように支援していく。 ・ローテーション道徳など様々な教育活動の中で、全児童の良さを全職員で共有するとともに、キャリアパスポートを活用して、児童に自分の夢と向き合うきっかけを作るようにする。 ・クラスタイムを引き続き活用し、夢プロの充実を図る。児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。 ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・A L T を効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。 ・給食時に英語の歌などに触れさせ、授業以外でも英語に親しむ機会を設ける。 ・英語科主任が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで理解を深める。 ・清原の豊富な地域の教材を活用した学習を様々な教科において展開する。 ・学年便りや学校便り、学校ホームページ等を利用して、児童が宇都宮についての学習を行っていることを周知していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A 10 児童は、I C T 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	・校内読書週間を実施し、本に触れる機会を確保し、各教科での調べ学習等にも活用するなど、自分が興味ある種類の本以外にも積極的に読めるように促す。 ・パソコンについては、発達段階に応じて体験できる機会を意図的に設ける。 ・プログラミング教育において、児童のパソコンに対する必要性の意識を高めていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

目 指 す 学 校 の 姿	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ※A2で評価	・昔遊びなど地域の高齢者の方々にお世話になった行事に関しては、HPなどで情報を発信していくとともに、一斉メールなどで、HPがアップされていることを発信する。 ・感謝の会が実施できないなど直接関われないときは、お手紙を書くときなどに、高齢者を意識した声掛けなどを行っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答80%以上	・実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種便りに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。 ・物を大切にすることを育むために、物への記名や生活委員会の啓発ポスターなどを活用する。 ・学校図書館司書と連携し、「持続可能な社会」についての資料を把握しておき、指導に生かせるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	○「清原っ子の約束」「清央っ子の約束」「家庭学習のすすめ」を参考にし、低学年から自主学習に取り組ませていく。 ・「カテ学ふり返り週間」を年に3回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。 ・スタンダードダイアリーの家庭学習時間の欄を活用し、毎日継続して記入できるように声掛けをしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答80%以上	・校内支援委員会、月1回の情報交換会等を密に行うとともに、管理職・学年の教員・教育相談担当教員・特別支援担当教員・SC等、と連携・協力して児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努める。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ・いじめゼロ強調月間の活動等、学校での取組を児童指導だより等で、保護者に発信していく。 具体的には、いじめゼロ標語を保護者と共に作成することとしたり、クラス代表作品を家庭に知らせたりしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。 ・学年だけでなく、全職員で児童を見ていくという意識を高めて、連携を密にしていく。 ・HPや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての取組を保護者・地域に情報提供していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ※A13で評価	・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させるとともに、より一層、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。 ・日本語教室での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。	【達成状況】 【次年度の方針】
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答95%以上	・「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、「夢プロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。 ・ドリームタイムや児童会主催の活動を拡充させ、主体的に人と関わる力を醸成していくとともに、クラスとしてのまとまりを強めるような取組を推進する。 ・HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに、朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。 ・少人数指導や特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】

A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・行事や授業の準備等、個々の役割と責任を明確にした上で、主務者の負担軽減、担当職員が確実な業務分担をして相互に協力しながら業務を行う。 ・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等との学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・優先順位を付けて業務に当たるなど、個々の教職員の取組を継続する。 ・ブロックごとに月に1回のリフレッシュデーを着実に実行する。 ・学校の取組を情報発信して、保護者や地域の理解を得る。 ・ボランティアによる参画も含めた業務の効率化を進めていく。 ・学年主任会や校務運営委員会を精選する。	【達成状況】 【次年度の方針】
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上	○6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。 ・状況を鑑みながら、今年度行えなかったあいさつ運動等を行い、中学生と関わる機会を設定し、学校園としての意識をもたせる。 ○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	・地域協議会やPTAと連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。 ・外部講師を招いての教育活動は、実践内容を精選し実効性を高める。	【達成状況】 【次年度の方針】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ※A22で評価	○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。 ○地域コーディネーターを通して、保護者・地域・企業等と連携したり、学校支援ボランティアを活用したりしながら、ボランティア人材バンクを作成・蓄積していくとともに、地域の教育機関や企業等との連携を強化していく。	【達成状況】 【次年度の方針】

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ・各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ・学校での安全に関する活動を保護者により知ってもらえるように、簡単な文章や写真と共に学校ホームページへの掲載で発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ※A10で評価	・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。購入資料選定の際に、幅広い資料を選定できるよう、全職員が資料を選択できる環境づくりを引き続き行う。 ・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。 ・一人一台タブレット型パソコンが導入されるので、授業での活用方法についての研修を行い、各学級での使用機会を増やしていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B2 教職員は学校課題に関する研究やカリキュラムマネジメントに取り組み、児童のコミュニケーション力を身に付けようとしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。 ・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。	【達成状況】 【次年度の方針】
本校の特色・課題等	B3 学校は「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。 【数値目標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・クラスタイムを活用し、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにできるようにする。 ・夢やめあてを表すときに、数値化することで、目標を明確にし、児童の意識を高める。 ・縦割り班、登校班などの異学年交流で、上学年が下学年のために何ができるか考える機会をもつ。下学年は、上学年に対して憧れをもてるような機会を設け、担任教師の助言を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。